

番号	42	圃場整備記念 昭和四十五年竣工		
所在地	鳥栖市水屋町			
災害別	日本住血吸虫病 水害			
目的別	記念碑	建立年	昭和５３年１０月	
特記事項	（参考）水門記念（碑）			



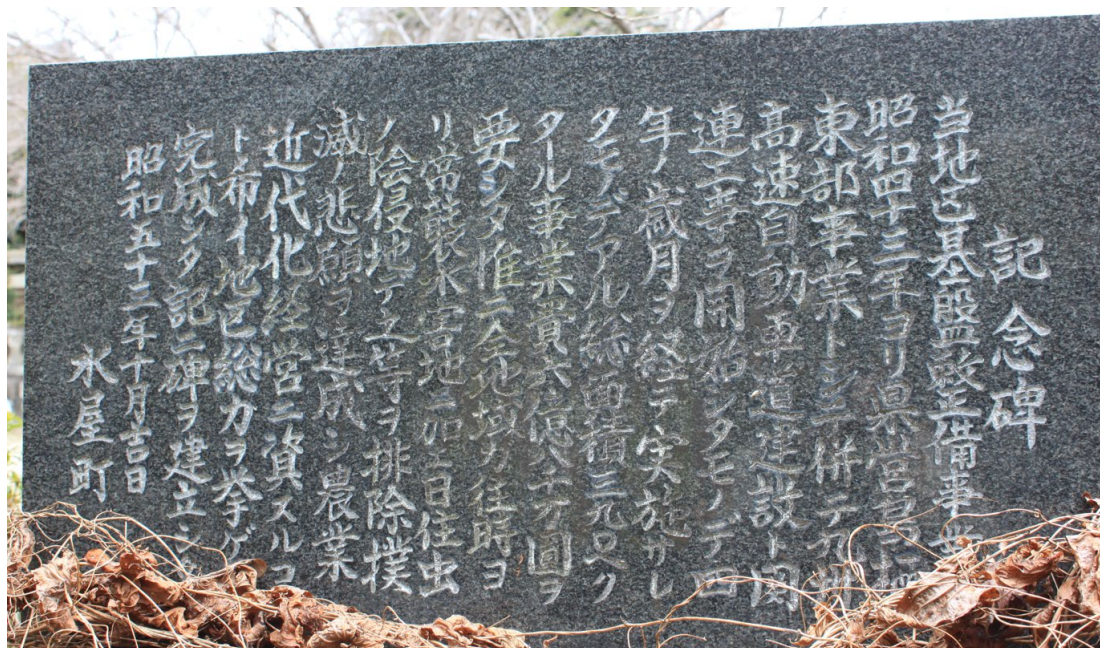
鳥栖市の南部、久留米市との境に当たる水屋町は、大木川、宝満川に挟まれ、低湿で昔から大雨のたびに湛水した。そのため、水屋町には、その名の通り水屋と呼ばれる母屋から一段高くなった家屋（現在は跡地のみ）や揚げ船と呼ばれる小舟を軒先に吊るすなど、水害に備えた工夫をした独特の住いが建てられた。

また、洪水は日本住血吸虫病流行をもたらした。この地区は日本住血吸虫病の幼虫の中間宿主であるミヤイリ貝の繁殖、棲息地であり、住民は永くこの病に苦しめられてきた。その対策として、唯一の中間宿主であるミヤイリ貝を撲滅することが最も効果的で強力な手段であるとして、農業基盤整備や河川改修が進められ、溝渠の三面コンクリート化などの対策が行われてきた。水屋町でも昭和43年より圃場整備が行われ、それに合わせて水路のコンクリート化などミヤイリ貝撲滅対策が施工された。この碑はその完成を記念したものである。

「記念碑 当地区基盤整備事業は昭和四十三年より県営鳥栖東部事業として併て九州高速自動車道建設と関連工事を開始したもので四年の歳月を経て実施されたものである、総

面積三九〇ヘクタール事業費六億八千万圓を要した惟に全地域が往時より常襲水害地に加え日住虫の陰侵地之等を排除撲滅の悲願を達成し農業近代化経営に資することを希い地区総力を挙げて完成した記念に碑を建立した 昭和五十三年十月吉日 水屋町」(原文はカタカナ表示)

なお、圃場整備記念碑前の水屋天満宮の境内の端に水門記念の碑が建てられている。石碑は下部が一部埋もれており碑文も判読困難。従ってどこの水門なのか不明。碑文はほとんど判読不能だが「大木川・・・一旦雨・・・村・・・水田・・・本村・・・ 明治廿四年六月」などと記されている。雨季には大木川など支流から筑後川の水が逆流してしばしば滞水し、それが数日にも及ぶことがあったといわれている。排水ポンプなどの施設のなかった当時では水門や閘門などにより逆流を防ぎ農地を冠水から守ったものと思われる。現在、大木川と宝満川の合流点付近には大木川水門が建設されている。水害常襲地帯であった本地区の歴史を伝えるものとして参考までに掲載する。



国土地理院電子国土 Web

(参考) 水門記念 (碑)



現在の大木川水門



大木川と宝満川合流地点



大木川 (上流方向)